國學院大學学術情報リポジトリ

宗教文化の授業研究会

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001859

宗教文化の授業研究会

本研究会は､｢宗教と社会｣学会のプロジェクト（2010 年～）と科学研究費補助金基盤研究（B)「宗教文化教育の教材に関する総合研究」(2011 ～ 2014 年度、研究代表 : 井上順孝・國學院大學）によって運営され、宗教文化教育推進センター（CERC）とも連携をしながら活動してきた。もともとは 2009 年に科学研究費補助金基盤研究（A)「大学における宗教文化教育の実質化を図るシステム構築」(研究代表 : 星野英紀・大正大学）の教材研究の試みとして発足したものである。

2014 年度は、研究会を 3 回と留学生を中心とする見学会を 2 回実施した。それぞれの内容を以下に記す。

(1) 研究会「海外で日本宗教を教える」

［日時］2014 年 4 月 13 日（日）13 時～
［場所］大正大学 2 号館 3 階 233 教室
［発表者とテーマ］
櫻井義秀「香港の大学院生に日本の宗教文化と社会を講義した経験から」
弓山達也「ハンガリー人学生に「日本人の死生観 / スピリチュアリティ」をどう伝えるか」
［内容］

今回のテーマは、海外で日本宗教の授業を教える際に、どういった点に配慮する必要があるのか、また教材は何を使い、どういった工夫が有効か、などの点を議論することを目的とした。

発題者の櫻井氏は、香港中文大学で大学院生に英語で行った日本宗教の授業を再現した。使用する資料などを中心にさまざまな意見が出た。

弓山氏は、ハンガリーの大学で映画を教材として用いて日本の死生観、スピリチュアリティについて授業を行った体験を発表し、素材の選び方や、学生の反応などをめぐって、議論が行われた。

海外といってもそれぞれの地域で若者が置かれている生活環境、経済環境は異なっているが、両氏の工夫や試行錯誤の体験を共有していくことは、参加者にとってきわめて有効であり、今後の参考になると思われた。

(2) 宗教施設見学会

［日時］2014 年 7 月 12 日（土）午後
［場所］東京ジャーミー、ニコライ堂、神田神社
［内容］

東京外国語大学、上智大学、東京大学、國學院大學の学生を中心に、40 名ほどで都内の宗教施設を回った。ムスリムの学生たちから、ぜひ日本人学生と東京ジャーミーを訪れたいという要望があり、はじめに東京ジャーミーを見学した。日本人の信者の方から丁寧な説明を受け、質疑応答も活発に行われた。

お茶の水のニコライ堂でも、日本人信者の方が説明をしてくださった。建築やイコンといった、目につく特徴だけでなく、日本におけるロシア正教の歴史についても説明があり、学生も熱心に耳を傾けていた。

神田神社では、平藤から神社の歴史や参拝作法などについて説明を行い、境内を自由に見学することとした。

大人数での移動は難しい点もあったが、今回はトルコやウズベキスタン、マレーシア、ロシア、中国、韓国などさまざまな国からの留学生が参加し、日本人学生と交流しながらの見学となり、双方にとっていい体験となったようである。

また事前に女子学生はスカーフの着用、露出の少ない服装が求められることなどを伝え、事前学習も行った。暑い日ではあったが、この体験もまた、学生には印象に残ったようだ。

(3) 研究会「10～15分で伝える宗教文化」

［日時］2014 年 7 月 20 日（日）13 時～

［場所］國學院大學学術メディアセンター 5 階会議室 06

［発表者］平藤喜久子・岩井洋・櫻井義秀

［内容］

YouTube などでの発信を意識し、10 ～ 15 分程度で伝えられるテーマ、内容について議論をした。平藤は、「参拝作法」と「手水」についての動画教材を作成し、字幕による説明で何を加えたらいいかなどの点についてアドバイスを受けた。

岩井氏は、「経営と宗教」についてのコースを提案した。そこでは次の 5 つからなるトピックが取り上げられた。

1. 経営者の宗教
2. 宗教を背景とした企業
3. 企業と宗教施設
4. 職場における宗教
5. 企業組織と宗教組織

簡潔でありながら、学生の関心を引くような取り上げ方が工夫されており、大変参考になった。

櫻井氏は、「現代のカルト問題と疑似科学」というテーマを取り上げ、大学生へのカルト教育を想定したコースを提案した。内容は次のようなものである。

1. 現代のカルト問題とは？
   —みなさんが遭遇するかもしれないカルト的団体
   —カルトとは何か
2. カルト的思考と行動様式をどう考えるか
   —疑似科学とサイエンス・コミュニケーション
   —カルトと大学教育

宗教に関わる授業を担当すると、カルト問題が専門ではなくとも、カルトと目されている宗教団体から勧誘されたなどの相談を受けることは多い。そうしたことへの対応は、本研究会のような場で学ぶことが必要だと感じる。

(4) 体験学習会「國學院大學博物館で Shintoを学ぶ」

［日時］2014 年 11 月 15 日（土）午後

［場所］國學院大學祭式教室・博物館

［内容］

東京外国語大学の留学生と日本人学生が國學院大學で神道について学ぶという体験を行った。まず祭式サークルの協力を得て、祭

式教室で行われている祭式の講習風景を見学し、祭式の説明を学生にしてもらった。その後、実際に祭服を着用する体験をした。

エジプト人の女子学生も参加しており、反応が心配であったが、喜んで体験に参加していた。色の重ね方の意味や祭礼についても積極的に質問をしていた。

博物館では、國學院大學で英語によるガイドを学んでいる学生が主に神道に関する部分を説明した。留学生からは、とてもわかりやすい英語だったと好評だった。同じ世代の大学生が説明をしているということで、親しみやすく感じたようでもあった。

(5) 研究会「グローバル人材に求められる宗教文化の知識とは」

［日時］2014 年 12 月 6 日（土）14:00 ～

［場所］國學院大學学術メディアセンター 5 階会議室 06

［発表者］

（株）TNC 代表取締役　小祝誉士夫

［コメント］

飯嶋秀治（九州大学）・木村敏明（東北大学）・Alimansyar（東北大学大学院）

［内容］

グローバル人材の養成が大学の課題とされるなか、実際にグローバルな企業は、ビジネスの場で宗教に関してどのような問題と向き合い、どのような人材が必要だと感じているのかを考えるため、ASEAN 諸国を中心にグローバルマーケティングを手広く手がけている TNC の小祝氏に発表をお願いした。小祝氏は、特にインドネシアを中心としたマーケティングを行ってきており、イスラーム圏の消費動向などの点で宗教が関わる事例などを紹介してくださった。質疑応答では、学生にどのような資質を求めるかなどをはじめとして活発な議論が行われた。

（平藤喜久子）